

ロシア主義青年同盟(東西)準備会結成大公議案

先進的青年政治家諸君、

革命の時代が始まりつつある。敗戦の秩序は打ちこわされ、古いものは大衆の暴力によつてほうむり去られようとしている。それは「革命党」にとつても例外ではない。われわれ共産主義青年同盟はこうした革命的激動期と世界革命、世界共産主義社会の実現を目標として、首尾一貫して、抜く共産主義者同盟の下の青年組織として、ここに誕生した。我々の理論と組織は、まぎれなく、この世界的激動期に見合った。世界革命への有効性という一点から形成されている。

青年共産主義者同盟の戦列に加わり、世界革命と共に闘いよう。七〇年を真直にひかえている。または一期のうちに階級的裏切りを意味するであろう。

① 小都市主義の不均等発展と現代革命

① 第一次大戦に至る前、小都市主義の口口統治原理は植民地への対外膨張と利益確保による労働者階級の買収と日見主義の形成、その植民地戦争と口防への動員、即ち社会排外主義への転化(域内平和)として支配を貫徹した。レーニンは世界資本主義の弱肉強食の環状ロシアの敗戦と植民地の喪失に対し、「小都市主義戦争を内乱へ」として全人民的政治闘争を提起して勝利し、ロシアを世界革命の根拠地に転化させた。レーニンはロシア革命がヨーロッパ革命へ飛火し、このヨーロッパ革命と結合してロシアソヴェト権力は生産の組織化と社会主義建設を目指すものとして、世界革命とロシア革命の戦略を提起した。が、ドイツ革命の挫折により、世界革命の第一の波は終息した。それはロシアが第一次大戦前に自らの党を社会から切り離し、独断口主義の植民地戦争に反対する政治闘争と大衆運動として組織し、労働者階級を指導的階級として形成し、口階主義で武装させていながら、故に、社会闘争の徹底化が進行しても、権力問題が提起される。敗北を必然化せしめられたのである。が、レーニンとコミンテルンは再三回大會で、組合主義的経済闘争による共産主義者

の獲得と謀まて統治した。これがスターリンの社会システム論と反ファシズム統一戦線論のシグナル路線を生んだ。

② 第二次大戦に至る過程は一九二九年恐慌により小都市主義戦争以前に統一世界市場が分断され、革命的情勢が劇変した。とりわけドイツと小都市主義は小都市主義世界経済の下で米帝の産業相対重化学工業に同化しえず、又植民地を第一次大戦で喪失していることにより、危機を集中させた。従って、コミンテルンに要求されていたのは、ヴェルサイユ体制打倒と世界革命の戦線(独革命の勝利と小都市主義への飛火)下に独断共産主義を結合させることであつたが、スターリンの一口革命と反ファシズム統一戦線によるコミンテルンの指導は、ドイツ、プロレタリアトを絞殺し、ファシズムの勝利をもたらした。

③ 第二次小都市主義戦争と小都市主義の敗北、その戦線処理過程の政治的混乱を内乱に転化する事によって、同時に各小都市主義を世界革命の渦の中に入れた。プロレタリア独断を樹立し、米帝口主義軍隊の反革命行動をソヴェト赤軍の軍事力で抑制する事、世界革命の構置をソ連は放棄した。このため、伊共産党はムソソリニを倒したから米軍に武装解除され、仏共産党は、小都市主義政府の閣僚を与えられることによりドゴールの武装解除を許し、ヨーロッパ小都市主義がブルジョワジーが、労働者階級の特権階級をブルジョワ階級に押し下げ、その中に収容することを通して支配を貫徹しようとする条件がとつた。他方、東欧では米ソの密約により、ソヴェト軍の下に各小都市主義は権力を獲得した。

中口革命はスターリンの指導から離れ、毛沢東に指導されたが故に保証された。「プロレタリアの正規軍としての紅軍と地域権力としての地域解放」との明確な大運動とによって、紅軍の暴力と農民の土地革命のエネルギーと結合させ勝利した。

④ 米帝口主義は第二次大戦後、その経済的軍事的圧倒的優位の下に、一口による侵略反革命の統一を確保し、NATの任務として完成し、さらにソ連を恫かして平和共存政策をとらしめ、統一戦線を再建し、ドル権を確立し、

に行ない、ヨーロッパ、日本の資本主義的再建に成功した。日本、ヨーロッパは米帝が二十年代に実現した重化学工業化を五十年代に達成した。

58年EEC結成をメルクマールとして、米民間巨大資本は高利潤を求めてEECに投資し、EECは44年56年に過剰生産傾向に入った。帝口主義列強はその結果、史上二度目の世界分割戦を本格化させている。即ち、後進口の勢力圏としての獲得である。後進口は今やかつての原料市場としての役割に加えて帝口主義の重化学工業品の投下を保証する軽工業口として主要である。この後進口市場分割戦の激化は各口帝口主義、とりわけ日独帝口主義の軍事力強化と各口帝口主義間の反革命同盟(安保/NATO)内のヘゲモニー競争の激化をもたらしている。

⑤帝口主義の分割戦開始(58年)は、後進口経済の破綻、再編と時期を同じくした。後進口民族ブルジョワジーは至窮甚盛を安んずせよとすればするほど、帝口主義とのゆ着を深めざるをえず、その結果、後進口の階級対立を教化させずにはおかないかった。この矛盾の中からカストロ、ゲバラ派が登場した。アジアと中東の一部では、戦時中から反帝独立運動を続けてきた政治勢力が、民族自決をもちと、た。権力を握った彼ら軍事ボナパルティス公権は民族ブルジョワジーと地主とを階級的基盤としながら主帝口主義とのゆ着をきけて原始的蓄積を行なおうとした。米ソ冷戦構造はあき明間、彼らの路線を可能とさせた。が農村経済を主体とし過密人口をかかえるアジア後進口の原蓄は、徹底した土地革命と社会化をめぐりにしては不可能であった。米の余剰農産物買入は外資を食いついた。更に、50年代の帝口主義の不均衡発展が重化学工業化であったことは先進口間貿易を要とさせ、後進口の原蓄は破綻し後進口階級斗争は激化し、軍事ボナパルティス公権は動搖を開始した。

このようなアジア情勢の中でベトナム民族解放戦線が民族解放とともに土地革命をかかげ武装斗争を開始した。

⑥ スターリンは「国社会主義論からソ連邦権威の平和権運動を提唱し、フルシチョフ平和共存路線は50年以降の資本主義の発展に照応し、核戦争の均衡に支えられた現状固定化を戦略化した。

日本、EECの生産力の発展、中日革命の成功、後進国武装斗争は、共存体制を打ち破りつつある。1917年、レーニンによって率いられた、ロシア革命の成功は史上始めて階級社会廃絶の過渡としての労働者国家を樹立した。労働者国家は「帝国主義に包圍された過渡社会」は、一國社会主義を世界革命戦略にまで高めた。スターリンに歪曲され、固定化され、そのヘゲモニーの下に第二次大戦終結を通じて、東欧、中国に拡大した。米英仏独領土の帝口主義列強は現存して、再生産構造を維持(発展)させている。この帝口主義「労働者国家」の存在している時代に「過渡期世界」とは我々は呼ぶ。我々は「過渡期世界」を帝口主義に包圍されてくるが故に「右翼せざるをえない矛盾を固定化の歪曲」になっている。「労働者」の社会主義までもを包む古牌をロシアリヤ細教に包圍同時革命をめとし、その衝口を衝いて生産主義社会のオーガニズムとしての世界社会主義社会の建設を目指すものがある。

右翼同時革命は従って帝口主義の口におけるロシアリヤ細教を主軸として、包圍口民族解放社会主義革命「労働者」国家の革命の同時的進行である。

百餘回の中絶戦線に對する民族解放社会主義革命は獨り
又の國內階級戦争にすぎず、インテリゲンチヤに對しては
又、中心の階級に對しては、田口を世界革命の根據地
へ転化させようとするものなるが、二の民族解放戦争も巨
大な生産力をもつ先進国革命と結合しない限り、社会
主義への平坦な道を進むことが出来ない。

米帝はペトナム侵略戦争に於て、ペトナム人民の英
雄的斗争に對して、的殿火をつけており、国内プロレタ
リアート学生のみならず、海外プロレタリアートに
對し、解放戦争と結合して、市民社会運動からの動機を
用いた。

日帝は自ら直接、侵略戦争に乗り出さず、このこ
政治体制の一時的な転換を図ろうとするが、国内プロ
レタリアート・学生のみならず、革命戦争を激化して
いる。

西独等も東欧に對して、NATOの軍へのプロレタリア
と国内体制に對して、非常事態は規定の中で全人民の反戦下
に出さうとしている。

東欧の争いも日帝は西独等と同盟し、侵略戦争の強
化の中で、国内社会主義革命の破産と結合して資本主
義への過激な道を歩ませ、国内階級対立を激化させ
ようとしている。

二の第三主義の立場から、南欧の本格化と、北アフリ
カ及び中東の革命の激化に對する、世界革命の対立
として、
二の第三主義の立場から、南欧の本格化と、北アフリ
カ及び中東の革命の激化に對する、世界革命の対立
として、

二の第三主義の立場から、南欧の本格化と、北アフリ
カ及び中東の革命の激化に對する、世界革命の対立
として、

二の第三主義の立場から、南欧の本格化と、北アフリ
カ及び中東の革命の激化に對する、世界革命の対立
として、

二の第三主義の立場から、南欧の本格化と、北アフリ
カ及び中東の革命の激化に對する、世界革命の対立
として、

二の第三主義の立場から、南欧の本格化と、北アフリ
カ及び中東の革命の激化に對する、世界革命の対立
として、

合理化をよしとげ、55、60年（現在では非生産部門に合理化が及んでゐる。この合理化の性格は、圧倒的な資本の力を背景に、一部労働者をまきこんだ生産性向上運動として出発し、この合理化体制の下で、生産部門に於ては、労働者の不満が増大し、これに対し、資本は私的治安体制の強化と排外主義宣伝によつてのりさうとしてゐる。そして資本自由化による国際競争戦の激化と、生産部門における労働量の増大は、非生産部門への利潤の分配を制約し、かくて非生産部門の合理化が65年以降押し進められることになつた。この55年以降生産部門から漸次非生産部門へと波及した合理化攻勢は少数の例外を除き、労働組合幹部を資本の側へと獲得させていった。すなわち合理化の進行は、資本による労働者の支配の強化をこたらし、その結果、労働組合幹部は、下部労働者と切斷され、経営に内着することを余儀なくされるのである。

一方政治体制に於ては、独占資本の専制支配は進行した。しかし、国際階級斗争に於けるオチ潮流の形成と、革命戦争の勝利的展開は、帝国主義の世界展開を歪め、排外主義による国民統合を非常に困難にしてゐる。しかも、日本に於ては、国家支配の要である自衛隊が国民に対する思想は影響力を十分に与へず、政治的弱点を形成してゐる。このうちで日本に於ては、大衆的政治斗争展開の可能性が広範に存在してゐる。しかもその闘いが、たえず急進化する傾向を含んでゐる。この大衆に対し、権力は治安体制の強化によつてのりさうとしてゐる。

② 65年日韓斗争の中で非生産部門への合理化攻勢に対するプロレタリアートの自然発生的高揚を基礎にして全労働の再建と共に反戦青年委員会が結成された。それがベトナム反戦斗争の高揚の中で、砂川斗争以降現地実力斗争を闘う自立的組織形態を地区反戦として見いだした。この地域を単位とし、反戦斗争を内容とすることは、国家主義的立場の確立と政治斗争の取柄へのさしこみも可能にした。10/8 甲田斗争は帝国主義の侵略と反革命に対する全人民的政治斗争の復活と組織された暴力の公然たる登場をかちとつた。そして昨年10/1 斗争は全人民的政治斗争の開始、政治斗争と

経済斗争の結合、組織された暴力への大衆の曳引を示した。そして、内江岸—新潟斗争として中央権力斗争—地域マニフェストの萌芽を勝ちとつた。そして10/1以降の組織された実力斗争の質が帝国主義的社会的再編に対決する斗争に持ちこまれ、全共斗運動を全国各大学に生み出した。このことにより、オニト安部斗争の根拠地を我々は獲得したし、オニトウルエ神田斗争を闘ふことにより、地域マニフェストを実現し、オニト組織された暴力の質的飛躍をソニヤフトラジカルを獲得することによつてなした。オニト四人民青年反革命軍として登場したことにより、日本の大衆的失脚が学生労働戦線の下部に伝達し、民青陣地の条件が整いつつある。オニト全共斗への、反戦青年委員会の結合は、従来日共と民間の力関係の上を泳いでいた反戦派の切り捨てが進行してゐる。

④ ソニエト運動

共産主義青年同盟は冒険で述べた如く世界革命への有効性でこつて組織されなはならぬ。我々は即座に代階級斗争を日本に於ては、武装闘争をめざした全人民的政治斗争として、即ち中央権力斗争と地域マニフェスト、ソニエト運動として提議する。

ソニエトとは、我々にこつては雄起の柱脚であり、権力奪取の核の柱脚である。だがそれは同時に、大衆にとつては民族主義的、改良的要素の核の柱脚である。そして、ソニエトは、故金制民主主義体制の下では民主主義的、改良的要素を自ら実現できなからつた時期に、大衆的には、直接民主主義の原理にたどり着いて雇用される質の運動であり、そのソニエトの要求は職権に規定されることである。そしてこのソニエト運動が、革命的出来と労働者大衆の統一戦線として形成される。そしてソニエト運動は権力奪取を海軍、社会主義革命を實施しつゝ限り、根を腐らすものではない。従つてこの曲の全共斗運動はソニエト運動の萌芽といえる。

〈IV〉 共青の性

第一に全人民の政治的斗争、とりわけ、中共戦力は争の先鋒に在ること、その主体たるは延安の無産階級に在ること。第二に、この階級斗争は聯合陣線を軸とするが、田代や右派の部令が被せしめたことを意味して、地方及び国の強化——強化する面にはある。

第三に、地方の階級斗争を以て中心として、地方政治運動の内部に組織的斗争を形成し、その恒常的主体たる研究と大衆斗争機關の研究を以て斗争會議の中核を替わねばならぬ。第四に、共産主義青年同盟は、これらの斗争の先頭に行つて共に理論的思想的強化を勝ちとり、これらの諸斗争を領導して行くこと、その独自の政治活動にとりてまねばならぬ。

一九六九年三月

共産主義青年同盟結成大会談義要(任務・方針)

①世帯階級斗争の位置 N.A.T.の位置

現代世帯階級主義は未だこの時期には「過渡期に
昇れゆく階級主義的勢力の(範圍) 概観」である。
この階級主義は、引續て階級主義の階級外交と階級
戦、と階級外交戦をからませながら、階級外交
戦の方向を定め、それに対する階級外交戦、一方
での世帯階級主義の対立の発展と、他方での世
帯階級主義の階級主義による発展のほしたらうと階級
戦、これらが、階級主義の方向から階級外交戦とそこ
で階級主義の階級主義として全面化しつつある。しかしながら
引續て階級主義の階級主義は、階級主義と階級外交戦
の発展を待つた、いはば階級主義の発展を待つた。
要するに階級主義の性格を待つた。

N.A.T.の位置は、現代階級主義の階級主義の方向から階級
主義外交戦の軸に階級主義の位置を定むるが、階級
主義外交戦と階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。
階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

N.A.T.の位置は、現代階級主義の階級主義の方向から階級
主義外交戦の軸に階級主義の位置を定むるが、階級
主義外交戦と階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

日本階級主義の位置は、以上のようでは階級主義の方向から階級
主義外交戦の軸に階級主義の位置を定むるが、階級
主義外交戦と階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

その階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

日本階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

現在の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級主義の階級
主義外交戦の発展を待つた、階級主義の発展を待つた。

中央権の行使は、中央権力斗争によって實現されるのである。今日の社会斗争や内閣斗争が、投票斗争の深さは、中央権力斗争によって決定される限り、それ自身で衝突の組織性、階級性を維持することはおもないのである。選挙衆の位置と在野一々善團の位置とは、その意味で、二つの階級斗争を中央権力斗争の具現せしめ、それを斗に扱ふことにならざるを得ない。

それと同時、われわれは明瞭に述べねばならぬ二つの問題(1)中央権力斗争の組織性、(2)その具現の一手段としての口衆派の政治性、政治的立場について言及しなければならぬ。

(1) 中央権力斗争の具現の問題は、口衆論、権力論を述べざるを得ないのである。口衆論、権力論とは、現存の二つの、この間の階級斗争の具現を述べつつある現象を指し、それらを互代へ向って形成される方向の下に明かしたくない。しかも、中央権力斗争を成せしめる条件は、オーエ階級を打ち倒る口衆の構造と主張を思想的根據を提せするといふ、秀れた愛の独自の思想の領域であり、そしてオニに、現代階級斗争一特に口々の向面におけるヨイタ、いかなる政治的主張において大衆を獲得するかを堂々聲明しなければならないのである。このオニはオニ、この間の階級斗争と中央権力斗争とをいふ、口衆斗争の深さ、その間の大衆的団結の組織性、かかる中央権力斗争への不連続的構造の位置として確定されねばならぬといふのである。

② それと、現在のスレッシュマジン一中央権力の質と量がなにかか。すでに我々の新聞に於ける日帝の位置が示された。この口、昨日の、今東大斗争の事象である。この中で明らかである。実力斗争派への補充が、街頭における活動から、セリシヤンであるが、それに対する攻撃へと移行しており、一オニは、大衆の向面に対する法的、制度的改革から、一オニは、軍事外交、口内政策、イデオロギヤ全般にわたる公然たる侵略、反革命の路線を提せしめる。

佐藤政府は、日帝のヨヨクへの面を叩きしめ、その政治的行動として、この巨大な革命勢力に向つて、その政治的行動を激しく攻撃した。

それと、制度をきめた権力機構全体の再編の開始であり、それは政治の軸とする政治的軸の本質は、ヨヨクへのフアンダム化の方向を以て、一オニ左派の動向と中間派、急進派をスレッシュマジン一の下に統合するものとなっている。

二つの自然発生性は、一オニ階級斗争として形成された歴史的階級斗争の斗にあり、然るにその斗の中の階級斗争の権力の先制的自決の支配構造を述べた批判である。しかも大衆を困る限り、その階級は、口内政治の方向を以て多岐にわたる。日帝との衝突が粉砕されたとし、それは酒単に口道感である。

その階級は口々の自然発生性は、佐藤政府の階級転換から動向に於て、よりなれた、左派とラジカル派のみなならず、社会諸階級を巻き込んでみまわさうとした口がなされる。

四月十一日のヨイの軸は、もつた、この階級斗争を、ヨヨクへのわくを打撃する口衆の政治的革命を公然とせ、大衆を更につつと解散するものが軸である。したがって、自然発生性の大衆的階級が社会一人民階級の下に、結果的には受け取られ得る可能性を以てして存在し、その中間派の立場を維持しつづける口衆派の下に統合し扱ふか否かの問題である。

四月十一日、「口衆階級」といふ政治が本格化する前段階で、ヨヨクからの身代への権力を打撃する政治的行動の貫徹することである。だから、四月斗争の目的は「安住協定斗争」の意義を、侵略、反革命の碎日帝打倒、五里軍閥戦争の一環としてこの日帝革命戦争を激発し、佐藤内閣を打倒から政治危機へと、首都を中心として今日政治斗争を完結せしめなければならない。この斗は六月から十一月安住の決戦へと統合することが必要である。